

午後Ⅱ試験

問 1

出題趣旨

コントロールセルフアセスメント（CSA）とは、各業務の担当者などが当該業務に関わるリスクやコントロールの有効性を自ら評価する手法である。システム監査では、CSA の結果の信頼性を高めるために、その実施方法や結果を確認するとともに、CSA の結果が信頼できるものであれば、監査の質や業務効率を高めるためにそれらを活用することも可能である。

本問では、監査人が CSA の実施方法や結果を監査したり、CSA の結果を監査に活用したりすることができる能力があるかどうかを評価する。

問 2

出題趣旨

情報システムや組込みシステムは、業務内容の変更、システム稼働環境の変化やシステム障害の問題解決のために、プログラム、マスタファイル、設定ファイルなどを短期間で修正しなければならない場合が多い。しかし、システムの前提条件や上限値などの制約条件を考慮せずに修正してしまうなど、日常的な保守に対する安易な対応は、システム全体にまで影響を及ぼすおそれがある。

本問では、情報システムや組込みシステムの日常的な保守に関わるリスクを評価し、正しく保守が行われているかどうかを監査するための見識や能力について評価する。

問 3

出題趣旨

企業などにおいては、自然災害などの不測の事態によって、情報システムが停止してしまうと、業務が停止し、その結果として、収益の減少、顧客満足度の低下、社会的信頼の低下などの影響を招きかねない。したがって、このような影響を最小限にとどめるため、ハードウェアなどを冗長化して、情報システムが停止しにくい構成を築いたり、万一、情報システムが停止した場合でも、短時間で復旧できるようにシステム復旧手順を策定する必要がある。

本問では、情報システムの冗長化対策の適切性とシステム復旧手順の実効性を監査するための知識や能力を評価する。